「日中友好訪中団」レポート

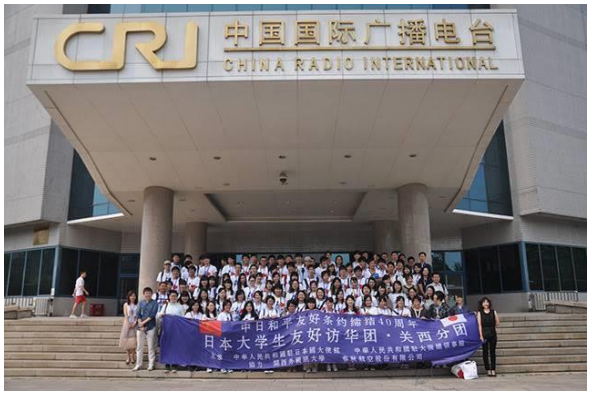
梅本 恭加

私は 8 月 26 日から 9 月 1 日の 6 日間、中国・北京に赴き、中華人民共和国駐日本国大使館・中華人民共和国駐大阪総領事館が共催する「2018 年日本大学生友好訪中団・関西分団」の一員として活動に参加しました。関西分団として引率の先生方を含む 100 名が参加し、私たち関西外国語大学生はその中で第 2 陣として訪中しました。事前研修会で顔を合わせていた学生もいたため、空港で集合した時点から和やかな雰囲気があり、搭乗を待つ間に改めてお互いに自己紹介をして交流を深めました。

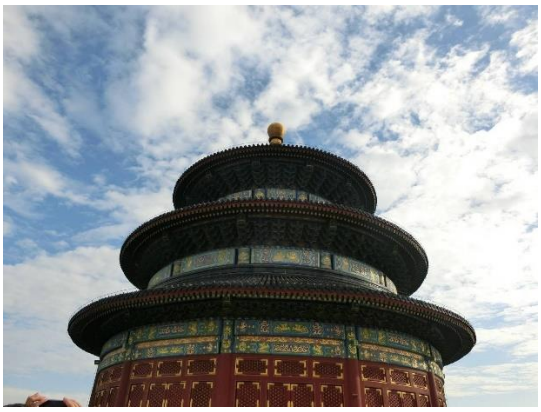
現地へ到着した翌日、27 日から本格的に訪中団としての活動が始まりました。第 2 陣はバス 2 台に分かれ、私たちは大阪大学、和歌山大学の学生、先生方と行動を共にしました。まず訪れた北京外国語大学では、少人数グループに分かれ、現地学生に大学内を案内して頂きました。私たちのグループを担当して下さった学生は日本留学から帰国したばかりの方で、流暢な日本語で説明して下さいました。北京外国語大学の歴史についてお話を伺った後には、現地学生と交流をしました。日本から持参したお菓子を食べながら、お互いの国に対する印象を話し合いました。昼食後は、頤和園を見学しました。全て見学するには時間が足りない程広い園内でしたが、ガイドさんがひとつひとつ丁寧に説明して下さいました。その日の夕食では、歓迎会として第 1 陣の学生、先生方と初めて食事を共にし、交流を深める事ができました。

28 日は中国国際放送局を見学させて頂きました。放送局のこれまでの歩みを学び、アナウンサーの方々に外国語を学ぶ上での心構えを教わりました。その後の首都博物館では、中国の長い歴史や外国との関わりについて深く学ぶことができ、中国の奥深さを実感しました。夕食後、ホテル内の劇場で鑑賞した京劇は研ぎ澄まされたひとつひとつの所作や発声、奏でられる音楽の一音一音に惹き込まれました。29 日には、北京大学にて行われたこ

の訪中団のメインイベント「中日大学生千人交流会」に参加しました。交流会前にはグループに分かれて北京大学の学生と大学内を見学し、食堂でご飯を食べたり、異文化体験をしたり、英語や中国語を使って現地学生と交流しました。私たちは中国語学科の学生と共に古典の授業と水墨画体験に参加しました。目の前で扇子にスルスルと梅の花を描いていく先生に圧倒されつつも、思い思いの作品を完成させました。「千人交流大会」では日本人学生による沖縄民謡、少林寺拳法と、現地学生の皆さんによるコーラスや京劇などが披露され、日本と中国が誇る文化の交流を目の当たりにして、日本人学生としてこの場に参加できていることを誇りに思いました。中でも印象的だったのは最後のマジックショーです。トランプに映し出される日本と中国のこれまでを振り返る写真の数々は、当時を知らない私たちにもこれまで積み重ねられた時間と歴史の重みが感じられる瞬間であり、次は私たちが次世代に日中友好のバトンを繋いでいく番だと強く思わされた瞬間でもありました。



30 日、この日で一足先に帰国される第 1 陣の学生、先生方に別れを告げ、私たち第 2 陣は万里の長城へ向かいました。学生同士の交流のみならず、すれ違う観光客の方々とも互いに励まし合ったり、一緒に写真を撮ったりしながら登りました。私は頂上まで登りきることはできませんでしたが、心地よい疲労感と仲間の笑顔に包まれて楽しい時間を過ごしました。その後、天壇公園と天安門広場の見学に行きました。そこで“天壇”とはそれぞれの神を祀った天壇・月壇・地壇・日壇の 1 つであることを初めて知り、まだまだ私の知らない歴史がたくさんあることを実感し、またその歴史に触れてみたいと思いました。最終日は京城百工坊で民俗文化体験として、3 日目に鑑賞した京劇に登場するお面の彩色をしました。日本でいう能面に近いですが、実際に京劇では顔に直接彩色するのでより細やかな感情表現に適しているというお話を伺いました。



大学、学科、国を越えても、「また会おうね」と言い合える仲間はできるということ、そして実際にそう思える仲間と出会えたことが、私がこの訪中団の活動を通して学んだことであり、この活動の意義であると思います。私は以前上海での留学生活を経験し、中国を訪れるのはこれが 2 回目でしたが、今回改めて感じた中国に住む人々の温かさや、中国という国の壮大さ、歴史の奥深さなど新しい発見もたくさんありました。まだ行った事のない方には、是非一度足を運んでもらいたい国の 1 つが中国です。中国ってどんなところ？という気持ちに忠実に、機会があれば是非「日中友好訪中団」の一員として参加してみてください。きっとたくさんの発見と新しい出会いが待っていると思います。

日中友好大学生訪中団に参加して

英語国際学部　3 年
小川瑞葵

私は、日中大学生友好団体の一人として、約 1 週間のツアーに参加させていただきました。関西外大生は 10 名、その他の関西地域の大学生らの計 100 名が関西分団として招待して頂きました。8 月 26 日の午後 19 時に関西国際空港を出発し、21 時に天津空港に到着しました。天津空港から北京にあるホテルまでは、バスで 2 時間の予定でしたが、北京への入国手続きに 1 時間半ほど待ち、ホテルには予定より大幅に遅れた深夜 1 時半ごろに到着しました。

2 日目は、まず北京外国語大学で、現地の日本語学部の学生達に、学内施設を案内してもらい、その後、グループに分かれ日中学生間で交流しました。次に、頤和園を見学しました。広大な敷地内には、何百年も前に建てられた建築物や、塔が並んでいました。時間の都合上、すべてを回ることが出来ませんでしたが、北京ならではの古き良き雰囲気を感じることが出来ました。夜は、歓迎会を開いていただきました。他大学の日本人大学生が集結しテーブルを囲んで食事を楽しみました。

3 日目は、中国国際放送局と首都博物館の見学、そして、京劇の鑑賞をしました。放送局では、3 名のアナウンサーが我々に日本語で、放送局の紹介をしてくださいました。首都博物館では、自由行動で 3 時間ほど見学しました。京劇は日本でいう能のようなもので、少し話を理解するのが困難でしたが、日本語の字幕も用意されていたので、何とか理解できました。

4 日目は、今回の訪問の目的である日中大学生友好交流会が北京大学で行われた日本人大学生 500 人と中国人大学生 500 人が交流する盛大な交流会です。本科生 1 名と関西分団の学生 2 名が 1 チームになり、午前中は大学を案内して頂いたり、学食で一緒に昼食を食べたりしました。私のチームは、日本語が話せない北京大学生と、中国語が話せない和歌山

大学生で構成れたので、英語で会話をしました。午後には、講堂に、千人の大学生と、関係者の方々が集まり、メインイベントが開かれました。日本からは、空手や沖縄の伝統舞踊を披露し、中国からは、京劇や、合唱を披露してくださいました。また、日中それぞれの大臣や学生が今後の日中関係についてお話をしてくださいました。最後は、マジシャンが現れ、見事なマジックで幕を閉じました。

5 日目は、午前中に万里の長城を登り、午後には、天安門、天壇公園を訪れました。念願の万里の長城に行けて、嬉しかったです。想像より道が遥かに長かったです。我々は、７合目から登りはじめ、9 合目まで到達したのですが、その先もまだまだ果てしない道が続いていました。階段の道を登ったのですが、一段一段高さが異なるため、予想以上に大変でした。そのうえ、この撮影した写真のように、上の方は霧がかかっていて、足場が悪く、登るのに苦労しました。

最終日は、百工房民族文化施設へ行き、伝統的なお面作りを体験しました。台湾出身の講師の方が、色の塗り方や、文化背景を丁寧に説明してくださいました。民族文化施設を離れたあとは、昼食を済ませ、天津空港へ向かいました。

皆様のおかげで、楽しく中国文化や伝統などを学ぶことができました。中国人との交流の機会を通して私は、新たな中国の魅力を知り、また、日本の魅力を伝えることもできました。今後も両国の関係は密接なものであると確信したし、友好な関係が続くことを改めて、願いました。本当に充実した１週間でした。個人的には、もっと中国語能力を上げるという目標をもたせてくれたいい機会にもなりました。

来年度以降参加される学生の皆さんへのアドバイスは、ぜひ、積極的に交流に参加してほしいです。たった１週間ですが、たくさんの人々と出会います。中国人との出会いも、関西分団の日本人学生との出会いも、縁あるものだと感じ、大切にしてほしいです。ですので、やはり、積極的にコミュニケーションをとっていくことを心がけて、参加してほしいと思います。あと、精一杯楽しむことも大切です！（笑）全力で感じ、学び、楽しんできてください！

関西外大生 10 名と、2 号車のガイドを担当してくださった陳さんです。陳さんは、とてもフレドリーな方で、日本語が達者なので、すぐに皆と打ち解けました。最終日には、２号車全員の寄せ書き入りの私たちが着ているものと同じ T シャツをプレゼントしました。陳さんのおかげで、より楽しく観光ができました。

最後まで読んでいただきありがとうございました!(^^)!

平成 30 年 9 月 7 日

2018 年 日中友好大学生訪中団
参加者レポート

英語国際学部　3 回生
奥　穂乃香

2018 年 8 月 26 日～9 月 1 日の七日間、私は日中友好大学生訪中団・関西分団の一員として中国、北京を訪れました。そこで感じたこと、新たなる発見をこのレポートを通して報告いたします。

日　程

8 月 26 日　関西国際空港から中国へ
27 日　北京外国語大学訪問、頤和園見学
28 日　中国国際放送局見学、首都博物館見学、京劇鑑賞
29 日　日中大学生千人交流大会
30 日　万里の長城、天壇、天安門見学、
31 日　民族文化体験、中国から関西国際空港へ
9 月 01 日　解散

具体的な活動内容

北京外国語大学訪問

日本語専攻の学生さんに大学を案内してもらった後、全体で北京外国語大学の紹介を受けた。その後グループごとに分かれて交流（雑談など）。

頤和園見学

世界遺産。雄大な昆明湖、全長 726mにも及ぶ渡り廊下、天井に描かれた歴史的な天井絵画は中国の歴史を思い起こさせるに十分であった。

中国国際放送局見学

日本語でニュースを発信している中国人アナウンサーの方々からお話を伺った。さすがはニュースキャスターだと感じた部分は、日本語の発音や語彙力が、今までに出会ったことがない程正確だったこと。

平成 30 年 9 月 7 日

首都博物館見学、京劇鑑賞

古代の石器や民族衣装、仏像から、元明清の国の成り立ちなど、中国 4000 年の歴史を感じることができた。

私自身、京劇を鑑賞したのは初めてのことで、事前知識がないままの鑑賞だった。舞台袖には奏者がおり、芝居には迫力があった。事前知識があればさらに楽しめたかもしれない。

日中大学生千人交流大会

北京大学で行われた。千人交流大会が開催される前に北京大学の博物館を見て回り、芸術学部の学生さんの指導の元、扇子に画を描いた。この時交流した北京大学の学生さんは日本語を勉強していない方々だったため、中国語又は英語での交流となった。

千人交流大会では、日本人学生の空手と沖縄舞踊の披露から始まり、次に中国人学生から伝統劇、雲南民族舞踊を披露して頂いた。その後関係者様からの祝辞をいただき、最後にマジックショーで締めくくられた。

万里の長城、天壇、天安門見学

バスで７合目まで登り、その後各自の足で長城を登った。階段の高さや狭さから、敵に侵入されまいという戦国時代の知恵や必死さが伝わってきた。

天壇の祈念堂は釘を一本も使わずに建築されたそうで、天災のない北京だからこそ保たれている木造建築。

この日の天安門は、翌日にアフリカとのサミットが開催されるため付近まで行くことができなかったが、周りは中国と世界各国の国旗がなびいていた。

民族文化体験

京劇の脸谱を制作した。通常は顔に直接化粧として塗るものを、今回は代わりにお面に塗った。公演があるごとにこの化粧をするのはきっと相当時間を要するものと思われる。今後京劇を鑑賞する時には、演技だけでなくこの脸谱にも注目したい。

食事

北京の郷土料理である北京ダックから、ジャージャー麺、中国風しゃぶしゃぶなど、中国らしい丸テーブルでふるまっていただいた。どれも日本とは違う味付けで新鮮だった。朝食はホテルでのバイキングを頂いた。

この訪中団に参加して感じたこと

私は大連に四ヶ月間留学した経験があり、私にとって中国への訪問は二回目でありましたが、前回と今回とでは感じる部分が大きく異なりました。それは、歴史に関する問題です。前回の大連では語学留学ということもあり、中国の歴史について学ぶことや、歴史的建造物を見学すること、京劇などの中国の伝統文化に触れる機会が多くありませでした。そのため今回の訪中団での世界遺産や博物館の見学、京劇の鑑賞を通し、中国の歴史を肌で感じるとともに、深く興味を持つことができました。

日中友好条約締結４０周年を迎えたとはいえ、報道を見る限り、歴史的な背景から日本と中国とではまだ溝が埋まりきっていない部分があると感じます。だからこそ、未来を担う私たち若者、そしてこの訪中団に参加した私に、率先して日中友好を広めていく使命があると感じています。この訪中団参加は私にとって、将来を考える大きな一歩となりました。

来年度以降参加する学生へ向けたアドバイス

旅程が分かっている場合は、事前学習をすることを推奨致します。見て回るポイントや、天井絵画、壁画が意味すること、その建築物は誰のために作られた何なのかについて予め知っておくことで理解を深めることができると思います。中国で喉と鼻を悪くする学生が多かったので、のど飴や睡眠時用のマスクなどもあればよかったかと思います。

「日中友好大学生訪中団」レポート

久保愉美

「日中友好大学生訪中団」レポート

久保愉美

8 月 26 日～9 月 1 日に、中華人民共和国駐日本国大使館、中華人民共和国駐大阪領事館は私たち関西外大１０名及び関西圏の他大学約 100 名を「日中友好大学生訪中団」として中国に派遣させていただきました。出発する 1 週間前には事前研修を行い、顔合わせをしましたが、100 名全員と顔を合わせるのは空港で初めてでした。飛行機の搭乗前に、皆それぞれ自己紹介をし、交流を深め合い、飛行機での移動や、天津空港から北京のホテルでの移動でも、皆で盛り上がったり、親交を深めました。8 月 26 日の 1 日目はほとんど移動で 1 日が終わりました。

27 日からは本格的に皆で行動をしました。人数が多いため、第１陣（24 日出発）第２陣、３陣（26 日出発）に分かれており、バスも３台に分かれ、私たちのバスでは、大阪大学、和歌山大学の学生と一緒で、そのため、主にこの 3 大学がひと号車で、1 週間共に行動していました。

8 月 27 日 2 日目、私たちは北京外国語大学を訪れました。現在 2018 年、北京外国語大学では９８ヶ国語を取り入れており、2020 年の東京オリンピックまでには 102 ヶ国語までに増やす予定をしているそうです。学内の図書館は御殿山キャンパスの図書館と少し似ており、ラーニングコモーズのような学生たちで討論する部屋も設置されていました。

「日中友好大学生訪中団」レポート

久保愉美

その後、各グループに分かれ、現役の北京外国語大学と交流をしました。北京外国語大学を訪れた後は、中国着いてからの初めてのランチ、ジャージャー麺をいただきました。日本のジャージャー麺と違って、中国の麺は太くてもちもちしていて、ソースも少し脂っこいので、すごくお腹が膨らみます。ランチの後は、頤和園という 18 世紀、清朝の皇帝が母親の長寿を祝って造営された北京最大の皇族庭園を訪れました。ディナーでは、初めて 100 人が揃い、皆でより交流を深めることができました。

8 月 28 日 3 日目、この日は第 1〜3 陣共に一緒に行動でした。朝、私たちの中国国際放送局に向かいました。普段じゃ入れないテレビ局を参観でき、アナウンサーの方達とも交流でき、忘れられない思い出ができました。その後は、博物館に行き、昔の中国について学びました。歴史が長い中国、知れば知るほど興味深くなり、もっと知りたい！と思えました。晩餐後は、中国の伝統的な古典演劇である京劇というものを拝見させていただきました。日本でいうミュージカルや宝塚のようなものでしたが、それよりも迫力がすごく、とても印象深かったです。

8 月 29 日 4 日目、この日が誰もが楽しみにしていた日だと思います。それは、北京大学での「中日大学生千人交流会」が開催されるからです。到着してから、現地の現役の北京大学生に校内を紹介してもらいましたが、校内が想像していた何十倍以上も広く、もはや一つの街だったと感じました。それから、各号車に分かれ、私たちの号車を担当していただた学部は中国語言文学系・中国語学科の学生たちでした。そのため、古典の授業や実際に水墨画を目の前で教えてもらい、描きました。この日は皆が一番中国語や英語を使った日だと思います。皆がもっと中国語を頑張ろうと思えた日だと思います。

「日中友好大学生訪中団」レポート

久保愉美

8 月 30 日 5 日目、第 1 陣のみなさんは帰国のため、お別れをしました。副団長の方が泣いてるのを見て、私ももらい泣きしそうになりました。別れをした後、私たちは万里の長城に向かいました。あいにく序盤は雨でした、どんどん晴れてきたので、とても安心しました。全員ではないですが、数名で頂点まで登ることができ、すごく達成感に満ち溢れました。

下りながら、数名でアイスクリームをいただきましたが、今までで食べたアイスの中でダントツでおいしかったのが今でも忘れられません。そして、午後は世界遺産である天壇公園を訪れました。この天壇は、昔、天神と地神を祭ったり、豊作を祈ったりした場所です。また、三層の屋根は全部で 28 本の木の柱だけで支えており、他には梁も釘も一切使用していないだそうです。とても神秘的でした。そして、天安門へも訪れました。

8 月 31 日 6 日目、ついにきてしまいました。中国での最終日です。私たちの 28 日の 3 日目で生で拝見した京劇は、今度は、それのお面を描きました。日本の伝統芸能「能楽」と中国の伝統芸能「京劇」どちらのユネスコ無形文化遺産に登録されていますが、「能楽」はゆったりと神秘的で様相を見せる『静』であり、「京劇」は派手な衣装や化粧で激しく立ち回る『静』であると講師の方がおっしゃってました。

たったの 1 週間で、私は生きて 20 年間で一番有意義な 1 週間だと感じました。まず初めに、西日本だけでも 12 の大学が集まり、一回生から学院生の方が集まり、皆違う学部学科で普段聞けないことも聞けて、また、年関係なし皆が一つになっていて、改めて感激しました。また、夜の自由時間は皆で観光地に行ったり、仲が深まる一方で、この 1 週間で“仲間”というものを収穫したのが一番大きかったです。

「日中友好大学生訪中団」レポート

久保愉美

そして、現地の大学生の私生活、日本への印象、たくさん聞くことができました。昨年、4ヶ月間中国留学していた、また違う時間を過ごすことができたと私は感じています。そして、恐縮ながら、私は西日本分団の団長をやらせていただきました。周りに年上もたくさんいる中、とてもプレッシャーを感じることがありましたが、二度とできない経験をさせていただき、とても勉強になることが本当に多かったです。何よりも、中国は、メディアやニュースで報道しているよりも悪くなく、人も暖かく、現地に行かないとわからない国です。まだまだたくさんの人が偏見を持っているのを、私たちが伝えて行きたいです。

もし、来年もこのような機会があれば、ぜひ後輩や同世代の方々にも行っていただきたいです。

関西外国語大学
英語国際学部３年　又吉香蘭

日中友好大学生訪中団レポート

英語国際学部 3 年　又吉香蘭

○日程

平成 30 年 8 月 26 日（日）～9 月 1 日（土）【6 泊 7 日】

8 月 26 日（日）	16：55	関西空港集合
	21：05	天津に到着
	23：30	ホテルにチェックイン（宿泊先：北京前門建国飯店）
8 月 27 日（月）	07：00–08：30	朝食（ホテル内）
	08：40–11：30	北京外国語大学訪問
	12：00–13：30	昼食（海碗居）
	13：40–17：00	頤和園見学
	18：00–20：00	歓迎会（ホテル）
8 月 28 日（火）	07：00–08：30	朝食（ホテル内）
	08：40–11：40	中国国際放送局見学
	12：00–13：30	昼食（海底捞火鍋）
	13：40–17：00	首都博物館見学
	18：00–19：00	夕食(ホテルバイキング)
	19：30–20：30	国粋京劇鑑賞（建国梨園劇場）
8 月 29 日（水）	07：00–08：00	朝食(ホテル内)
	09：30–17：00	北京大学にて日中大学生千人交流大会
	18：30–19：30	夕食（全聚徳北京ダック）
8 月 30 日（木）	07：00–08：30	朝食（ホテル内）
	08：40–11：40	居庸関長城見学
	12：00–13：30	昼食（昌平大宅門）
	13：40–17：00	天壇公園見学
	17：30–19：00	夕食（東来順しゃぶしゃぶ）
8 月 31 日（金）	07：00–08：30	朝食（ホテル内）
	08：40–11：00	京城百工坊にて民俗文化体験
	11：30–12：30	昼食（焼肉）
	12：40–13：40	チェックアウト
	14：00	天津空港へ出発
	20：30–00：15	天津から大阪へ
9 月 1 日（土）	01：30	チェックイン（ホテル日航関西空港）
	07：00–08：30	朝食（ホテル内）
	09：00	チェックアウト、解散

関西外国語大学
英語国際学部３年　又吉香蘭

○派遣先

中国（北京市）

○活動内容

北京外国語大学訪問

キャンパス見学（日本語専攻の中国人学生が大学内の体育館、図書館、教室棟、中文学院などを紹介してくれました。図書館がとても広く、所蔵されている本も多く本を検索するデーターベース機能も便利でした。また、夏休みにもかかわらず、図書館内の自習スペースで多くの学生が勉学に励んでいる姿が印象的でした。）

大学紹介（北京外国語大学の留学生事務室李冰副所長による大学紹介。北京外国語大学の創立歴史や学部についての説明をしてくださいました。）

グループ討論（いくつかのグループに分かれ、日中大学生が互いの国の異なる文化や中国語・日本語を学ぶきっかけなどについて話し合いました。相違点や共通点などが多くあり、互いの国を知る良い機会となりました。）

中国国際放送局見学

中国国際放送局は 1941 年に設立された歴史ある中国の国際放送局です。65 か国語で全世界に向けて放送を行う、世界中で使用言語の多い放送局として有名です。放送局見学の際には、日本語ラジオを担当されている職員の方が局内を案内してくださり、放送局の歴史や世界中の 101 の放送局との連携関係を紹介してくださいました。また、日本語での放送も活発にしており日本語で制作された日本文化についての映像も見せていただきました。日本国内でもアプリなどで中国国際放送局の放送しているラジオを聴くことができるので、ラジオを通して中国や日本について学ぶことができるので、是非活用しようと思います。

関西外国語大学
英語国際学部３年　又吉香蘭

首都博物館見学

首都博物館は、雄大で特徴的な建物で中国古代から現代までの豊富な展示品が展示されており、中国文化の中心地である北京の位置づけにふさわしい博物館です。主な展示品として、北京市で出土した文物や北京の歴史、考古学及び関連学科の最新の研究成果など北京の特色が豊かなものが多く展示されています。見学時には、中国人のガイドの方が丁寧に分かりやすく展示品を説明してくださいました。中国文物や歴史など新たな知識を蓄えることができ、とても良い時間を過ごしました。

関西外国語大学
英語国際学部３年　又吉香蘭

日中大学生千人交流大会

今回の主な目的である北京大学で開催された日中両国の大学生約 1000 人が参加する日中大学生千人交流大会に参加しました。午前は北京大学の学生による学部・サークル紹介、午後は日中大学生千人交流大会に参加しました。中国人学生と日本人学生二人一組のパートナーで北京大学内を見学しました。素晴らしい展示が多くある標本館や博物館の見学、大学内にある湖の散策など学生同士が交流しながら見学することができました。私たちを案内してくれた中文学科の学生らが中国の伝統的な梅の花の絵の描き方を丁寧にレクチャーしてくれました。その後、実際に私たちも中国人学生の指導を受けながらそれぞれの好きな花の絵を描きました。初めての体験でしたが、各自の個性が絵に現れていて素晴らしかったです。

午後の日中大学生千人交流大会では、初めに日本側の出し物で少林寺拳法や沖縄舞踊が披露され、また中国側の出し物で伝統劇や民族舞踊、歌唱などが披露されました。その後、日中双方の代表者による祝辞が述べられました。祝辞の中で、双方共に強く主張していたことは、未来を担うのは若者たちであり、今後も日中両国の青年の交流を促進することの重要性でした。最後にはマジックショーが披露され、華麗なマジックと共に日中友好交流の歩みが披露され会場が歓喜に包まれました。歓喜に包まれる中、日中両国の先代の人々が築き上げてきた日中友好の道のりを再認識し、日中友好の懸け橋を築く役割を担う両国の青年を中心とし、両国の素晴らしい未来に希望を抱き共に歩もうというメッセージを表す「青年・希望・未来」という言葉が掲げられました。

○訪中団に参加して感じたこと

今回、日中平和友好条約締結 40 周年という節目の年に訪中団の一員として、日中大学生千人交流大会に参加することができたことを心から感謝します。私たち訪中団関西分団は、6 泊 7 日という日程で中国・北京に派遣され、現地学生との交流や多くの歴史的遺産・文化遺産また、伝統芸能鑑賞などを通し様々な面から中国についての理解を深めました。今回の訪中団は、中国人学生そして日本人学生との交流を通して互いの国の文化や価値観について学ぶとても良い機会でした。私が特に印象的だったことは、日中大学生千人交流大会の祝辞の挨拶で日中両国の李総理そして安倍首相が共に主張していた言葉です。「両国は長

期的かつ友好的で安定した関係を発展させるべきだ、若者たちは両国の未来を担っている。我々は今後も青少年交流を促進させて、日中友好のためにより多くの架け橋を築くべきだ。」この言葉を聞いて、改めて日中友好のために私たち青年が担うべき役割や互いに歩み寄ることの大切さを学びました。今回の訪中団を通して得た知識や経験、そして多くの方との出会いを大切に今後も日中友好に貢献できるよう勉学に励み、様々なことに挑戦していきたいです。

○学生に向けたアドバイス

今回、私が訪中団に参加して事前にもう少し準備しておけば良かったことが二つあります。一つ目は、中国語のレベルを上げることです。やはり、ある程度のレベルの中国語で日常会話や討論ができるとコミュニケーションが円滑になり、相互理解が深まります。日々、少しずつ中国語の単語を勉強したり、中国人留学生と交流することをすすめます。二つ目は、中国に関する知識また理解を深めることです。相互理解の為にも日中関係の歴史を学ぶことはとても大切です。図書館の本などを活用し自ら進んで学ぶ姿勢が大切です。